

第3回練馬区地域福祉・福祉のまちづくり 総合計画推進委員会

- 1 日時 平成30年3月26日（月）：午後2時00分～午後3時10分
- 2 場所 練馬区立区民・産業プラザ（ココネリ）3階 研修室1
- 3 出席者 **【委員】**
飯村委員 石川委員 岡崎委員 小田委員 鴨治委員、川井委員、
川久保委員 河島委員 木村委員 鈴木委員、高橋委員 田中委員、
中村委員 平田委員、古田委員 松澤委員 的野委員
吉田（純）委員（以上18名）
【区出席者】
福祉部長、福祉部管理課長、建築課長、障害者施策推進課長
- 4 公開の可否 公開
- 5 傍聴者 なし
- 6 議題
 - (1) 開会
 - (2) 練馬区社会福祉協議会と練馬区障害者就労促進協会の統合に伴う事業の充実について
 - (3) 多様な人との相互理解の促進について
 - (4) 練馬区独立70周年記念事業ねりまユニバーサルフェス「みんなのUDパーク」の実施について
 - (5) 次期地域福祉計画について
 - (6) 次回の日程について
 - (7) 閉会

○委員長 それでは、定刻になりましたので、第3回地域福祉・福祉のまちづくり総合計画推進委員会を開催したいと思います。第2期の第3回ということで、年度末になり、今日はおおむね報告案件というものが中心になるかと思っておりますけれども、よろしくお願ひしたいと思います。それでは、最初に、事務局から、委員の出席状況と会の情報公開、傍聴者がいらっしやればお願ひしたいと思います。よろしくお願ひします。

○事務局 まず、委員の出席状況についてご報告いたします。現在、18名の委員に出席いただいております。また、本日の会議は公開となっております。会議の議事録につきましては、区のホームページに掲載する予定です。記録がまとまり次第、委員の皆様にお送りいたしますので、ご確認をお願ひいたします。

○委員長 ありがとうございます。それでは、早速、委員会を進めたいと思っておりますけれども、最初に、配付資料の確認等をお願ひしたいと思います。

○事務局
(事務局 資料確認)

○委員長 ありがとうございます。それでは、次第に沿いまして、進めていきたいと思っております。今日の終了時間ですけれども、おおむね3時ぐらいに終了させていただきたいと思っておりますので、ご了承の方をお願ひしたいと思います。

それでは、3番の「多様な人との相互理解の促進について」から始めたいと思います。最初に資料の説明をお願いしたいと思います。よろしくどうぞお願いします。

○事務局 3番「多様な人との相互理解の促進について」ご説明させていただきたいと思います。資料2と、冊子の「私にできるちょっとしたこと」をご覧くださいければと思います。

平成28年度3月に、「お互いの理解のために1」ができましたというご報告をさせていただきました。事業内容としては、高齢者、障害者、子育て世代、外国人など、多様な人々が気軽にまちに出て交流を行うためには、公共交通施設や道路、建物などのバリアフリー整備や相互理解など、どんなことが必要なかを学び、理解を深めることが必要となります。誰もが地域の一員として快適に生活できるよう、ともに支え合い、自由に社会参加できるまちの普及啓発に取り組んでいくということで、相互理解のための小冊子を作成いたしました。こちらに関しては、平成28年度から平成31年度にかけて、毎年テーマを決めて1冊ずつ発行するものです。

事業スケジュールの※をご覧くださいければと思います。各年度のテーマですけれども、平成28年度は、移動等、物理的バリアのある方への理解を深めるということで、ハード面のご紹介をさせていただきました。平成29年度は、情報・コミュニケーションにおいてバリアのある方への理解を深めるということで、情報バリアフリーについてピックアップして作らせていただきました。平成30年度は、予定ですが、平成28年度・29年度を受けて、具体的にどうしたらいいのかという説明をメインに作ってみたいと思っております。

では、資料2の裏をご覧くださいければと思います。小冊子の作成・発行に向けた取組をご説明させていただきたいと思います。平成28年度のパート1と同じく、ワークショップを開催しまして、障害当事者の方や、福祉のまちづくりサポーター、区民の方からご意見をいただきました。6月には、情報コミュニケーションについて多様な人のニーズ収集を行いました。ご参加いただいた方々に、色々なご意見をいただきまして、項目出しをいたしました。第2回は平成29年7月にさせていただきました。ニーズ収集の結果に基づき、実際に、皆さんに庁内を回っていただいて、サインなど実際に見て確認を行いました。第3回は平成29年9月に、第1回、第2回で得た結果を見て、区が作成した小冊子の案に関しまして、皆様からご意見をいただきました。でき上がったのが、こちらの冊子となっております。こちらの冊子は、福祉のまちづくりサポーター研修でも活用させていただいております。平成30年1月15日に、この冊子をもとに情報バリアフリーに関して講座を行いまして、36人の方にご参加いただきました。

福祉のまちづくりサポーターに関しまして、ご説明をさせていただきます。こちらは、人に優しいだけではなく、人が優しい社会の実現に向けて、協働で福祉のまちづくり活動を推進する区民の方にご登録いただいている、研修や区が実施する事業に参加し、区民の方の目線で意見、アドバイス等をいただいております。冊子については、後でお目通しいただければと思います。

以上で説明を終わらせていただきたいと思います。

○委員長 ありがとうございます。資料2についてご説明をいただきました。1ページ、2ページ、裏面もありますけれども、資料等の説明について、何かご質問等はございますでしょうか。

パンフレットについて、既に活用されているというご報告ですので、参加されている方もいらっしゃるかもしれませんが、ご意見、ご発言がありましたらお願いしたいと思います。どなたかありますか。よろしいでしょうかね。

障害者差別解消法ではありませんけれども、ハードだけではなくて、ソフト面の対応、それぞれの公共空間等で実現するための媒体等を含めたわかりやすいリーフレットになっているかと思います。後ほど何かありましたら、ご報告とご意見をいただければと思いますけれども、資料2については、一旦終わりにしたいと思います。

それでは、最初の議題に戻りますけれども、2番の「練馬区社会福祉協議会と練馬区障害者就労促進協会の統合に伴う事業の充実について」よろしく願いいたします。

○委員 資料1-3と資料1です。社協とレインボーワークの統合に伴う事業の充実について、この推進委員会でお話ししてほしいというお話があって、そもそも、なぜこの推進委員会で社協からこのお話をするのか事務局とお話をしました。社協の地域福祉活動計画は、この練馬区地域福祉・福祉のまちづくり総合計画と連携して地域福祉を進めるということをやっております。

社協というのは、住民の皆さんと地域福祉を進めていく、民間で進めていく福祉の関係者や、住民の皆さんと社協をつくっていっているの、その民間で地域福祉を進める地域福祉計画を地域福祉活動計画と言っています。

それと、練馬区でやっている地域福祉・福祉のまちづくり総合計画と連携しないと練馬区の地域福祉は進めていけないということがあって、第二次計画から、この推進委員会に参加させていただいたり、活動計画には福祉部長に入っていたり、連携して計画を進めているということから、社協の状況が変わったということはこの推進委員会で報告させてもらう機会になったのかなと考えております。

1番の資料をご覧ください。社会福祉協議会は、区政改革によって社協とレインボーワークが統合しました。その結果、平成29年度の組織図から平成30年度の組織図に変わりました。レインボーワークの名前も、「練馬区障害者就労支援センター」という名称になって、障害者就労・生活支援課という新しい課になって、そこにレインボーワークだけではなく、障害者に対して特に生活の面を応援できる「きらら」と「ういんぐ」も入り、障害福祉の人材育成を行っている研修センターも入って一つの課としました。新しい課は網掛けをしています。

このように社会福祉協議会は新しく生まれ変わりました。この中でどのようなことをするかといいますと、資料1-2をご覧ください。

この図の「協会の就労支援の流れと、社協の支援」と書いてある真ん中に、五角形というのですか、矢印的なもので「就労支援説明会・個別面談」から「面談」、「初期評価」、「コーディネイト」と、真っすぐに真ん中の幹のような流れでやっている、これがレインボーワークの就労支援でした。それなりに就労支援ができていますけれども、そこにどうしても足りない点、生活支援の方で、もうちょっと応援ができればよかったとか、より就労の面でも連携できたらいいなというところで、社協が持っている様々なサービス、情報を埋め込むと、より充実した事業が進められるのではないかとということで、点線で、社協が持っているサービスや情報を入れました。

左は就労面の連携ということで、「きらら」・「ういんぐ」が持っているものを活用し

たり、社協は地域のネットワークを持っていますので、社会福祉法人のネットワークなどを活用して就労面の応援ができるのではないかと。

右には生活支援の提供ということで、社協の部署である「権利擁護センター」、「生活サポートセンター」、「ボランティアセンター」や「きらら」、「ういんぐ」など、ニーズに合わせて生活支援の提供や福祉制度の利用案内などができるのではないかと、社協の各部署が持っている得意分野を生かして、今までも連携していましたが、同じ法人になってより生かせるのではないかとということで、既存の事業を充実させられるのではないかとというイメージ図が、この資料の1-2です。

一方、新事業を立ち上げられたらということで、資料1-3新規事業「リ・スタート事業」についてをご覧ください。

レインボーワークでも就労支援をやっていましたが、様々な理由で退職した方たちの、再び就労に向けた支援が今までなかなかできなかったということがあって、特に生活が整っていなかった、就労活動の前に生活が整っていなかった人がいたのではないかと。そこで、社協の得意分野である生活支援の部分を生かして、再就職に向けて再スタートができるような支援ができるのではないかとということで、様々な理由により退職した人で再就職に向けて生活面と就労面での支援が必要となる人を対象として、社会生活の見直しを行って、就労に向けて再スタートを支援するという新規事業を考えました。統合によって、既存事業の充実と、新たに始める新規事業を二つ行っていきたいと考えております。

それと、社協だよりをお手元に配ってあります。3月21日に、区報とともに新聞に折り込みで入っていたかと思うのですが、お気づきの方はいらっしゃいますでしょうか。これで3回目なのです。今回は目立って、初めて入ったというふうに言われているのですが、3回目。開いて左上に、練馬区障害者就労促進協会との統合についての説明が入っております。右下に、各部署の新しい4月1日からの体制についても入っておりますので、ご覧いただけたらと思っております。説明は以上です。

○委員長 ありがとうございます。

従来の社会福祉協議会の活動にプラスして、障害者就労促進協会の関係のものが統合されて、組織替えが行われているというところですか。より区内の地域福祉の拡充を図るといふ戦略かと思えます。資料の説明をいただきましたけれども、おわかりになりましたでしょうか。ご質問等がありましたらお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。ふだん多くの方が社協活動にかかわっていらっしゃるかと思えます。

○委員 社会福祉協議会の統合による新規事業ということで、「リ・スタート事業」の説明を受けました。それで、わからないところがあるのですが、支援対象者として、「各部署等の相談からリ・スターター候補者を挙げ」とありますが、この内容は、相談事例なのか、いわゆる各部署が抱えているリ・スタートの希望者を探し出すのか、この辺がはっきりわからないので、教えていただきたいと思えます。

○委員長 では、お願いします。

○委員 各部署で受けている相談事例の中で、この方は「リ・スタート事業」を受けることがよりいいのではないかとという方を推薦していくことを考えています。

○委員 各部署というのは、「きらら」、「ういんぐ」を含めての話ですか。

○委員 はい、そうです。社協の中の、全部で10部署になるのですけれども、そこからで

す。

○委員 ということは、主として障害者が対象となるということでしょうか。

○委員 はい。

○委員 その辺がはっきり出ていないので、しかもメニューとしていろいろ挙がっておりますが、これをどういうふうに使われるかというのが第二の質問でございます。なかなか使いにくいメニューだと思いますが、この辺はしっかり考えていただいているとは思いますが、メニューという以上は、何か筋書きがあるはずなので、その辺もわかりやすく説明していただきたいと思います。

○委員 その方に合った、その方の目的に合った、その方の今の状況に合ったオーダーメイドでメニューをつくっていきたくて考えているのです。その中には今の既存のサービスもあるでしょうし、資料の中にもありますが、新規のプログラムと書かせていただきましたけれども、新しくサービスをつくっていくこともあるのではないかと考えています。

○委員長 よろしいでしょうか。

○委員 だんだんわかってくると思いますので。

○委員長 そうですね。

○委員 今のところは、まだわかっていない。

○委員 よろしくお願ひします。

○委員 ぼんやりしています。

○委員長 実際には統合されていきますので、また、既存のメニューもさらに色々な意味で変わっていく可能性もあるかと思ひますが、悪く変えるということは絶対ないので、よりよく変わっていくという方向性だと思います。それから組織的にも大きくなっていきますので、そういう点でも、区民の方から、さらに色々な情報が出てくる可能性がありますが、よろしくお願ひしたいと思ひます。

この「リ・スタート」というのは、主として障害を持っている方ということですが、特に障害を持っている方だけとは限らないわけですよ。

○委員 はい、そうです。グレーな。

○委員長 幅広くこの事業で対象になるような人ということで、具体的に障害ということは書かれておりませんが、高齢の方ですとか、それ以外の方も入ってくるということで。

○委員 今、該当者を伺いました。障害をお持ちの方ほかということなのですよ。最近、私の周りも、亡くなったり、お一人になられる方が大変多いのです。どこに相談に行っていくかというのは、ひとり住まいの高齢者も大丈夫ですよ。相談に行くのはどこですか。もちろん包括支援センターがありますけれども、そういうところに駆け込むという人がいた場合は、「ここに行ってください」という指導があるのですか。

○委員 ひとり暮らしのお年寄りで、今、社協に多く相談にいらしているのは、どちらかというと生活サポートセンターが多いのです。年金だけでは生活できず、仕事があった方がいいのではないかとご相談を受けているので、その方も、もちろん就職して退職した人という意味では一緒なのですが、対象としては、生活サポートセンターの方がより合うのではないかと。

○委員 ありがとうございます。これを使いながら内容が充実していけばと思ひますので、

もう少し範囲が広がったり、使い勝手がよくなったりしていけばありがたいなと思っています。

○管理課長 少し補足させてください。資料1を見ていただくとわかるのですが、今回、委員からご説明いただいたのは、今までレインボーワークという障害者就労促進協会さんがやっていたことを、社協と一緒にすることでさらに充実させるということです。先ほど委員から、障害者だけなのかという件に関しては、「障害者だけではないですよ」と申し上げたのは、障害者ということではなくて、生きづらさを感じているような、いわゆるグレーというのでしょうか、そういった方も含みますよという意味合いで委員からお話をいただいたのであって、例えば、いわゆる生活困窮者であるとか、そういった方を対象にするということではありません。あくまでも障害者を中心に、あるいは生きづらさを感じている、障害にはグレーかなと思われる方も含むという、そういう意味合いで受けとめていただけたらありがたいかなと思います。

以上です。

○委員長 ありがとうございます。こちらは、多分、それぞれの人で少しずつ動いてくると、みんなにわかりやすくなっていくかと思しますので、よろしく願いいたします。よろしいでしょうか。どうぞ、お願いいたします。

○委員 一つ確認したいのですが、平成29年度まで、就労協会の各施設の自動販売機がありましたよね。その収益が障害者団体に分配されていましたが、今後もそれが続けられるのかどうかということをお聞きしたいと思います。

○管理課長 その件につきましては、今まで障害者就労促進協会が取りまとめをして、それぞれの団体さんに助成していたものが、やり方は変わりますが、自動販売機の設置については区でやることとなりますけれども、各団体さんに対して、今までのような形で助成金をお出しするというその仕組みについては変わりません。ただ、助成金をどういった団体にお幾ら差し上げる形になるのかというのは、別に障害者の団体であるかどうかということにかかわらず、区全体として、いろいろな補助金、助成金のあり方の中で見直すことはあるかもしれませんが、仕組み自体は今後も継続させていただきます。

○委員長 よろしいでしょうか。

○委員 はい。

○委員長 ありがとうございます。団体間での要望等もあるかと思しますので、ぜひ受付けていただければと思います。よろしく願いいたします。ほかにないでしょうか。

次の議題に移ってよろしいでしょうか。

それでは、4番目の「練馬区独立70周年記念事業ねりまユニバーサルフェス「みんなのUDパーク」の実施について」ということで、資料の説明をお願いしたいと思います。

○事務局 では4番、「練馬区独立70周年記念事業ねりまユニバーサルフェス「みんなのUDパーク」の実施について」ご説明させていただきたいと思います。

以前、こちらの事業に関しまして、12月に行いますというご報告をいたしました。ねりまユニバーサルフェスの概要としまして、もう一度お話しさせていただければと思います。こちらは、障害者、高齢者、子ども、外国人など、多様な人が互いに理解し合い、ともに暮らせる地域社会をつくることを目的としまして、区独立70周年を契機として、障害者週間に合わせて、毎年12月を中心に、広く区民と楽しみながら参加できる複数のイベン

トを、ユニバーサルフェスとして開催することとしました。

こちらに関しましては8事業ございます。7月から12月までは、「ねりあるキラリー」というスタンプラリー、ノーマライゼーション水泳フェスティバル、ユニバーサルスポーツフェスティバル、障害者福祉大会、障害者フェスティバル、障害者ふれあい作品展、みんなのUDパークを行わせていただきました。あと、障害者差別解消法啓発事業ということで、展示、講演会、また8番目、ねりまユニバーサルオーケストラコンサート、こちらの全8事業をまとめまして、ねりまユニバーサルフェスとして開催させていただいたものです。今回、実施した内容を、「ねりまほっとライン」という、1月後半に練馬区で放送させていただきました様子がございますので、まずはビデオをご覧くださいと思います。

（ビデオ上映）

○事務局 ユニバーサルフェスの様子がおわかりいただけたのかなと思います。では、資料3と本日配付させていただきました「みんなのUDパーク」のリーフレットをもとに、UDパークの実施のご報告をさせていただけたらと思います。

概要ですが、まず日時、平成29年12月9日、10時から16時まで、区民・産業プラザ、ココネリ3階を貸し切って実施いたしました。開催内容としましては、ユニバーサルデザインの普及啓発や相互理解をテーマとした各種体験や製品の紹介・販売、講座・ワークショップ、地域福祉団体の活動紹介。こちらでは、当係でやっております地域福祉活動へのご支援ということで、やさしいまちづくり支援事業で助成金等をご支援させていただいております団体の活動紹介をさせていただきました。

来場者数に関しましては、当日、1,500人の方にいらしていただきました。その中から、アンケート回答をいただいたので、その内容をご報告させていただけたらと思います。回答者数は、229人の方からいただきました。大体15%なので、10人に一人か二人の方からいただいたということになっております。多世代かつ多様な方が参加することを想定しまして、アンケート回答と、面白かったブースにシール投票いただく、どちらかの回答をいただいたものになっております。アンケート回答に関しましては、性別や年代もお聞きしているのですが、大体、回答された方の男性・女性比率は、女性が65%ぐらい、男性が31%ぐらいになっております。年代は30代、40代の方が半数、52%。10歳未満やお若い方たちが12%。あとは60代、70代というふうな形で、ご家族でいらしていただいた方が多かったのかなと思っております。

結果ですけれども、満足度は、「満足」、「やや満足」と回答した方が95.8%と、満足をいただきました。内訳としましては、「満足」と回答された方が130人、79.8%、「やや満足」は26人、16.0%、「普通」は7人、4.3%、「やや不満足」・「不満」のご回答はなかったということになっております。お褒めの言葉をいただいたのですが、今回は初めてということで課題もたくさん出てきたと思います。

その中で、いただいたご指摘やご意見を、回答結果（イ）に挙げさせていただきましたのでご紹介させていただきたいと思います。

「UDパークというイベントでしたが、「何をもってUDなのか」という定義や、出展者たちの意図を説明してもらわないとわからなかった」ということでご意見がありました。

楽しいイベントですので、UDということをご存知ないままという方がいらっしゃるな

いようにと思ひまして、ユニバーサルデザインの工夫というパネルを紹介させていただいたのですが、もうちょっとわかりやすい形で紹介させていただけたらいいのかなと思ひました。あと、リーフレットの中を開いていただいて、各ブースを紹介させていただいたのですが、「レイアウトが少しわかりづらかった」というご指摘をいただきました。

また、「係の人の位置がわからなかった」ということで、係員は腕章をしていたのですが、人がたくさんいたときに、すぐ係員が誰かというのがわかりづらかったのかなというところが反省点となっております。

あと、リーフレットの2番「バリアフリー体験」の下に「UDグッズ紹介のコーナー」があるのですが、おもちゃや文房具、日用品の紹介をさせていただいたのですが、「もっとたくさんあると良い」というご意見もいただきました。

また、リーフレットには載っていないのですが、事前募集申込制で、多様な方が交流するというのも大切だということで、子どもさんからご高齢の方まで、みんなが一緒に楽しめるイベントということで、読み聞かせのイベントや、障害のある子も、ない子も、みんなで一つのクリスマスツリーを描いてみようとか、そういうワークショップをしたのですが、「会議室でのイベント案内がわかりにくい」というご意見がありました。あと、「一体感がわかりづらかった」というご意見をいただきました。

では、裏面をご覧くださいと思います。各コーナーの感想について、楽しかったコーナーと、UDを身近に感じられたコーナーということで、両方聞かせていただきました。スポーツ体験は「楽しかった」というのが多かったのですが、「UDを身近に感じられたかどうか」というと4位となっております。一番高かったのが、2番目にあるバリアフリー体験（車いす体験、盲導犬歩行体験、点字名刺体験）、こちらが「楽しかった」、かつ「UDを身近に感じられた」というご意見をいただきました。

車いす体験や点字名刺に関しましては委員にご協力いただきまして、当日は本当にありがとうございました。

UDグッズ紹介コーナーですが、「楽しかった」は7位ですが、「UDを身近に感じられた」ということで、日用品であったり、文房具であったり、ユニバーサルデザインの工夫がされているのを感じないで使っている方が、「わかった」、「UDを身近に感じられた」と回答いただけたのかなと思ひますのと、おもちゃがあって、対象年齢が低くなっていたので、「楽しかった」というのが7位だったのかなというのが感想となっております。

また、下に、シール投票結果を入れさせていただいております。こちらはアンケート回答ではなく、シール回答をしていただき、楽しかったコーナーについてのご意見をいただいたと思っております。スポーツ体験、バリアフリー体験が多く回答いただいているのかなということと、当日体験ワークショップは、地域福祉活動団体の方たちにワークショップなどをやっていただいたのですが、「楽しかった」というご意見をいただいております。また、「あそんで体験」というのが、先ほど映像でご紹介させていただきました段ブロック遊びとなっております。こちら「楽しかった」ということで、多くご回答いただいていると思ひます。ご説明は以上となります。

○委員長 ありがとうございます。

それでは、このUDパークに参加された方が何人かいらっしゃるのでは、ご感想をお願いしたいと思います。

○委員 UDパークの点字、視覚障害者のサインですね、その名刺づくりをやりました。会場の一番奥の一番端っこというか、係、職員の方が連れてくるなりしないと、なかなか寄ってこられないような状況でしたけれども、来た人たちはとても満足して帰られたと思います。中には、自主的に、その場で一つ点字の機械を借りたままで打ち続けたいという人もいらっしゃいましたし、読み書きのチラシもプレゼントしたのですけれども、それも大切にお持ち帰りになったというようなこともあり、そういう意味では、なかなかよかったなと思いました。その反面、どこかでユニバーサルという部分が、最初ですから、あれも、これも、これもという感じが強く出ていて、ぼやけているのかなとは思いましたが、ゲームという意味では、皆さんとても楽しくしていたのではないかなという印象を持ちました。

○委員長 ありがとうございます。

○委員 私は、研修室を利用したワークショップの朗読と、バンダイさんのトランプをつくるワークショップに参加したのですけれども、募集の仕方が前もって申込みをするということだったので、学校でUDを勉強しているということがあるので、もう少し学校などに出てもらえるように募集をかけると参加者が増えたのではないかなと思っています。

知り合いがほかのスポーツに参加したりしているのですが、体験するということは、すごくインパクトがあるのですよね。UDを一般の知り合いなどに話すと、UD自体がまだ浸透されていないということがあって、UDパークのチラシを見た人たちも、「ああ、UDね」と、UDが何かわかっていないということがあったので、1回目で仕方ないと思うのですけれども、知らしめる方法をもう少し工夫されたらよかったのではないかなと思いました。

○委員長 ありがとうございます。ご体験された委員はいかがでしたか。

○委員 当日、車いす体験を担当させていただきました。バリアフリー体験と書いてあるけれども、実際はそこまで難しいことはしなかった。実際に、車いすの視点で体験できるので、そういう意味でもよかったと思いますし、これからも続けていっていただければいいのかなと思っています。多少、時間がまばらで並んでしまうことがあったので、少し考えた方がいいのかなという気持ちもありますが、この先も続けていく予定だと思うので、考えていったらいいと思います。

○委員長 ありがとうございます。ほかにも参加された方はいらっしゃいますでしょうか。

○委員 私も参加しましたがけれども、非常に皆さん一生懸命やっておられて、子どもたちも楽しくバレーボールをしたり、UDを学んでおられたりしてうれしかったですね。

○委員長 ありがとうございます。

○委員 参加してないのですけれども、手話のコーナーがないという部分に気がつきました。来年度は手話の体験コーナーもぜひ入れていただきたいと思います。

○委員長 手話はなかったですかね。残念でした。

○委員 来年度もやる予定があるのでしょうか。

○事務局 あります。

○委員長 これから毎年ということでしょうね。

○委員 日程が決まったら教えてください。

○委員長 準備は、区内の各団体の方々とか、実行委員会みたいな形式をつかってやっていращやるのですか。

○管理課長 昨年12月に実施したときは、実施しようと思ったのが結構遅かったのですが、実は、この12月9日は午前中に学校があったのですよね。それで、子どもは3時間授業があって、帰ってきてお昼を食べてということがあったり、このUDパークをやりますといったときには、既に児童館や学童クラブでクリスマスに向けて、例えばクッキーづくりの予定が入っていたり。学校に向けての周知をさせていただいたのですけれども、学校があった日だったりとか、もう既にいろいろな計画がいろんなところでされていたというところもあって、残念だったなと思っています。

ただ、まずはユニバーサルデザインを知らない人についても一回足を運んでいただいて、余りハードルを高くしてしまうと、何か難しそうだから行くのをやめようになってしまうので、楽しいなというところで、まずはおもしろがって来ていただいたときに、何か学ぶところがあって、そこから一歩踏み出していただけるというレベルを、第1回目ならそのぐらいから始めないと、むしろ皆さん敬遠してしまうのかなということやらせていただきました。

ただ、先ほど委員がおっしゃったように、実は手話通訳の方はずっと待機していただいていたのですけれども、待機していただいたのであれば、そこで例えばミニ手話講座をやってもよかったかなと思ったり、もっとあんなことも、こんなこともできたなというふうに思っているところはあるので、ぜひ第2回に向けて、レイアウトも、安全を考えて余裕を持ってみたり、あるいはベビーカーで来る人がいっぱいいるだろうからベビーカー置き場をつくらなければと思ったり、実はみんなそんな形では来なかったりということがありましたので、いろいろな反省点をいい形で改善していきたいと思っております。皆さんからのご意見も募集しておりますので、何かお気づきの点とか提案がありましたら、よろしく願いいたします。実行委員会方式という形は、前回は取りませんでしたので、あくまで区の方で考えて、ご協力いただける方をお願いするという形でしたが、第2回に向けて改めて検討していきたいというふうに考えております。以上です。

○委員 言い忘れましたが、区長も参加されていまして、それだけ区としてもUDに力を入れているという印象を受けました。

○委員 ユニバーサルデザインは、とても大切だということがわかりました。

一番困るのが、昨年10月から2月の間、区の行事がたくさんあったのですね。障害者団体、例えば、映画鑑賞とか図書館への呼びかけですとか、いろいろな行事や区役所からの連絡がたくさんあって、みんな日程が近かったのですね。

ですので、12月の第1週は障害者フェスティバルがありますし、第2週はユニバーサルフェスティバルと、とても皆さんの負担があったのではないかと思うのですけれども、できるだけ負担がないように、日にちを分散させていただけたらと思うので、よろしく願いいたします。

○委員長 日程が、ちょうど障害者週間とぶつかってしまっていますので、都内全体で全国的な会合などもあって、色々大変だったかと思います。恐らく通常では1年ぐらい前

から準備していかないといけない行事だと思いますので、ぜひ、これまでの本当にいい点もあるし、あるいは反省する点もあるので、先ほどの課長の話にもありましたが、さらに充実していくようにしたいと思います。ありがとうございました。

それでは、時間の関係もありますので、次の最後の議題に移りたいと思います。

次期地域福祉計画についてということで、こちらは、資料はありませんけれども、口頭での説明になると思います。よろしく願いいたします。

○事務局 資料はございませんので、口頭でご説明させていただきます。

現行の練馬区地域福祉・福祉のまちづくり総合計画につきましては、計画期間が平成27年度から平成31年度までとなっております。現在、考えております次期計画の策定スケジュールですけれども、簡単に申し上げますと、平成30年度につきましては、国や東京都、他の自治体の地域福祉に関する動向や取り組みの情報収集、それから、民生・児童委員の皆様や地域福祉活動団体の方々へのアンケート調査、こういったものを踏まえまして、区の課題の整理を行っていきたいと思っております。年度末には計画の骨子案のたたき台ぐらいまで作成できればと考えているところです。

それから、平成31年度につきましては、計画の策定委員会などでご意見をいただきながら、具体的な計画の内容の検討を進めてまいりたいと思っております。

そして、素案ができたところで、区民の皆様にもパブリックコメントなどでご意見をいただきまして、計画に反映させていきたいと思っております。平成31年度末には、次期の計画を策定できるように進めていきたいと考えております。詳細につきましては、この推進委員会の場で随時報告してまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。次期計画については以上になります。

○委員長 ありがとうございました。

これからの、平成31年度の策定に向けた平成30年度のスケジュールについて、内容をご説明いただきました。あつという間に5か年という形になってまいりますけれども、ぜひよろしくお願いをしたいと思っております。今のご説明について、何かご質問、ご意見等がございますでしょうか。来年度4月以降の会議の中で、また議論を深めたいというふうに思います。それでは、次回の日程等についてご説明いただけますでしょうか。

○事務局 それでは、次回の日程についてです。

次第に書かせていただきましたけれども、次回の推進委員会の日程は、7月3日火曜日、午後2時からを予定しております。場所は区民・産業プラザの3階。この研修室ではなく、ココネリホールの3分の1を使って行いたいと考えております。また、開催が近づきまして、ひと月前になりましたら開催通知、それから2週間ぐらい前になりましたら資料をお送りしたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

○委員長 ありがとうございました。今日は短い時間でしたけれども、全ての議事について報告等をいただきました。特に皆様方から、この機会にいかがですか。

○委員 今期は、あと4、5、6の3回という認識でよろしいでしょうか。

○委員長 回数ですか。

○委員 去年、全体のスケジュールで平成29年度か30年度の予定というものをいただいているのだけれども、その時点で、4回は平成30年6月下旬、これが7月になったということです。ということは、恐らく全体のスケジュールがまだフィックスされていないと思う

のだけれども。

○委員長 行程ですね。では、平成30年度の最初は7月3日ということですが、それ以降について。

○事務局 まず、現在、この推進委員会は第2期ということで、昨年度から始まりまして、皆様、委員の任期が平成31年3月末までとなっております。

平成29年度につきましては今日、3回目を開催させていただきまして、平成30年度につきましては、また3回開催の予定となっております。平成30年度の第1回目、第2期で言えば4回目になりますけれども、それが次回の7月3日になる予定です。その後につきましては、まだはっきり決めておりませんが、11月と3月に開催の予定で調整したいと思っております。

○委員長 よろしいでしょうかね。ありがとうございます。ほかにございますか。

それでは、最後に、今日は報告の案件が中心でしたけれども、副委員長から、コメントあるいはご意見がありましたら。

○副委員長 今日は報告関係で、新しく例えばUDパークの映像ですとかも見せていただきましたけれども、計画が確実にいろいろな形で実践されつつ進んでいくのだなということを実感することができました。

恐らく、本当に練馬区のさまざまな方たちが、こういうさまざまなイベント一つとりましても、練馬区の区全体でやるイベントももちろん大切でありますけれども、その存在をご存じない方もまだたくさんいらっしゃるかなと思います。

その進め方というのは、皆様と一緒に、それぞれができる。例えば、もう少し小さい範囲の中で、ユニバーサルデザインももちろんですけども、ほかの福祉のまちづくりとか、地域福祉というのが一体どういうものなのだろうということを進めていくという、地道な取り組みが非常に大切なのかなというのを改めて感じたところです。

そういう形で、この計画の中に、年3回ぐらい来ていただいている皆様は、地域の中ではさまざまな活動の中心になっている方かなと思いますので、そういう形でも、また相互にやりとりしながら、この計画を根づかせていくということに、お互い意見交換と実践ができればいいかなと思いました。以上です。

○委員長 ありがとうございます。

平成30年度はとても大事な時期になるのだと思います。基本的には、平成32年度以降の新規の計画に向けた調査期間という形になりますけれども、先ほどのUDフェスのお話ではありませんけれども、区民の方々がどこまで知っているかということなどもありますので、そういった認知も含めて、ぜひ調査していただいて、幅広く委員の方に。

調査するということは、こういうことをやっているよということを区民の皆様には知らせることにつながっていきますので、そういう機会も調査の計画の中に入れていただきながら進めていただければと思います。よろしくどうぞお願いをしたいと思います。

特に、皆様方の方から、何かございますか。

○委員 UDパークについて、よろしいですか。UDパークで二つの意見がありまして、これは単年度事業ではなくて、ぜひ継続でやられたら素晴らしいと思うのです。

それと、所管が福祉部単一ですけども、もっとほかの部署、ハード面も担っている建築課であるとか、まちセンとか、そのあたりとも共催を考えて、ご検討いただけたら幸い

です。

○委員長 恐らく、当然、区としては、いろいろな各関連部局との連携なども含めて展開を図っていただけるのではないかと思います。よろしいでしょうか。ありがとうございます。

いろいろと区民の皆様から、この委員以外の方々からもご意見があると思いますので、今日もアンケートの結果を見ておりますけれども、そのあたりを私たちも参考にしながら、さらに、企画が早まれば、一度、こういう場でもお披露目いただいて、また皆さんのアイデアを頂戴するところもあるかもしれませんけれども、どうぞよろしくお願いをしたいと思います。

それでは、第2期の第3回地域福祉・福祉のまちづくり総合計画推進委員会はこれで終了になりますが、よろしいでしょうか。どうもありがとうございました。